

# ◆◆各種がん検診を受けられる方へ◆◆

## 検診を受ける前に



### 自治体で推奨している各種がん検診

- 胃がん：胃X線検査（※40歳以上・年1回受診）  
胃内視鏡検査（50歳以上・2年に1度受診）
- 肺がん：肺X線検査、痰の検査（40歳以上・年1回受診）
- 大腸がん：便潜血反応（※40歳以上・年1回受診）
- 乳がん：マンモグラフィ（※40歳以上・2年に1度受診）
- 子宮頸がん：子宮頸部の細胞診（20歳以上・2年に1度受診）



※平群町では独自に対象年齢を胃X線検査・大腸がん検診35歳以上、乳がん検診集団30歳以上と拡大しています。



### がんを取り巻く状況

- 胃がん：40～60歳代男性に多いがん
- 肺がん：男性の死亡1位のがん
- 大腸がん：女性の死亡1位のがん
- 乳がん：女性の罹患数1位のがん
- 子宮頸がん：30～40歳代若い女性に多いがん

### がんとたばこ

たばこを吸わない人に比べて、吸う人は男性で約5倍、女性で約4倍、肺がんが亡くなるリスクが高くなり、たばこを吸う年数や本数が多いほど肺がんになりやすいです。周りの人も受動喫煙で肺がんリスクを上げてしまいます。

### がん検診のメリット・デメリット

がん検診は「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。早期発見・治療で大切な命を守るために、定期的に検査を受診し「異常あり」という結果を受け取った場合必ず精密検査を受けるようにしてください。

すべての検診には「デメリット」があります。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんが検診で見つかるというわけではありません。

しかし、低い確率で起こるデメリットよりも、がんで亡くなることを防ぐメリットが大きいことが証明されているので定期的を受診することが大切になってきます。

がんでなくても「要精検」と判定されることがあります。子宮頸がんでは前がん病変も検診で見つけられるのですが、この中には放置しても治癒してしまうものも多いため、結果的に不必要な精密検査や治療を受けなければならない場合もあります。また検査によって出血などが起こることがあります。

胃がん・肺がん・乳がんでは放置していても死に至らないがんが見つかったために不必要な治療を受けなければならない場合もあります。また胃がんの精密検査によっては出血などが起こる事があります。

## 検診の流れ

申し込み  
受付

問診

がん検診

異常あり

精密検査

がん

異常なし

治療

次回の  
検診

※R3年度よりリスクを考慮し、70歳以上の方への案内ハガキを中止します。

## 検診前の注意事項

## 胃がん検診

## 肺がん検診

## 大腸がん検診

## 乳がん検診

## 子宮頸がん検診

## 各種がん検診・精密検査の内容

○下記の症状がある場合は検診ではなく、医療機関を受診してください。  
胃がん検診：胃の痛み・不快感・食欲不振・食事がつかえる等  
肺がん検診：血痰・長引く咳・胸痛・声がれ・息切れ等  
大腸がん検診：血便・腹痛・便の性状や回数に変化した等  
乳がん検診：乳房のしこり、ひきつれ・乳頭から血清分泌・乳頭の湿疹やただれ等  
子宮頸がん検診：月経以外の出血・閉経したのに出血・月経が不規則等  
○検診は平群町と各医療機関が連携して実施しています。精密検査の結果は関係機関で共有されます。



胃X線検査：発泡剤で胃を膨らませバリウムを飲み胃の粘膜を観察します。  
・検査は前日の夜10時以降飲んだり食べたりせずお越しください。  
・バリウムは便秘になったり腸閉塞を起こすことがあります。  
※常用薬、アレルギーがある場合、過去にこの検査で問題があった方、手術を受けて1年以内の方、水分制限を受けている方は要相談。  
胃内視鏡検査（個別検診）詳細は健康保険課（プリズムへぐり）問合せください。  
・口か鼻から胃に内視鏡を挿入し内部を観察。胃内視鏡検査では胃の動きを抑える注射や、喉の麻酔を行います。  
**精密検査**  
胃内視鏡検査で疑わしい部位を観察します。必要な場合は生検（組織の採取）を行います。

肺のX線検査：胸のX線撮影。X線（放射線）による健康被害はほとんどありません。  
喀痰の検査：過去、現在喫煙していた人に推奨しています。3日間起床時に痰を取り、専用の容器に入れて提出。痰に含まれる細胞や成分を測定してがん細胞の有無を調べます。  
**精密検査**  
C T：X線で病変が疑われる部位を断層撮影し詳しく調べます。  
気管支鏡検査：気管支鏡を口や鼻から挿入し病変を疑う部位を直接観察します。必要に応じて組織を採取し調べます。



便潜血検査：がんやポリープがあると腸内で出血することがあります。2日分の便を採取して便に交じった血液を検出する検査です。  
**精密検査**  
全大腸内視鏡検査：下剤で大腸を空にして肛門から内視鏡を挿入し腸内を観察。必要に応じて組織を採取し悪性かどうかを診断。  
内視鏡検査と大腸X線検査の併用方法：内視鏡で観察することが困難な奥の大腸にはX線を併用して調べます。肛門からバリウムを注入して膨らませX線撮影を行います。※精密検査として便潜血検査をすることは不適切です。

マンモグラフィは小さいしこりや石灰化を見つけられます。乳房をプラスチック板で挟み撮影することから、数十秒ではありますが圧迫で痛みを感じる場合があります。放射線被ばくによる健康被害はほとんどありません。授乳中は乳腺が発達しているため検査できません。視触診のみの乳がん検診は推奨されていません。  
**精密検査**  
マンモグラフィ：疑わしい部位を多方面から追加撮影します。  
超音波：超音波で疑わしい部位を詳しく観察します。  
細胞診・組織診：疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し悪性かどうか調べます。



子宮の入り口をブラシの付いた専用器具で細胞を擦り取って異常な細胞がないか顕微鏡で調べます。月経中は避けて検査を受けて下さい。  
**精密検査**  
コルポスコプ（膣拡大鏡）検査⇒異常部位があれば細胞を一部採取して悪性かどうかを診断  
細胞診の結果によってはHPV検査（子宮頸がんを引き起こすウイルスの有無）を行います。必要に応じてコルポスコプ下の組織診・細胞診・HPV検査等を組み合わせて行います。

